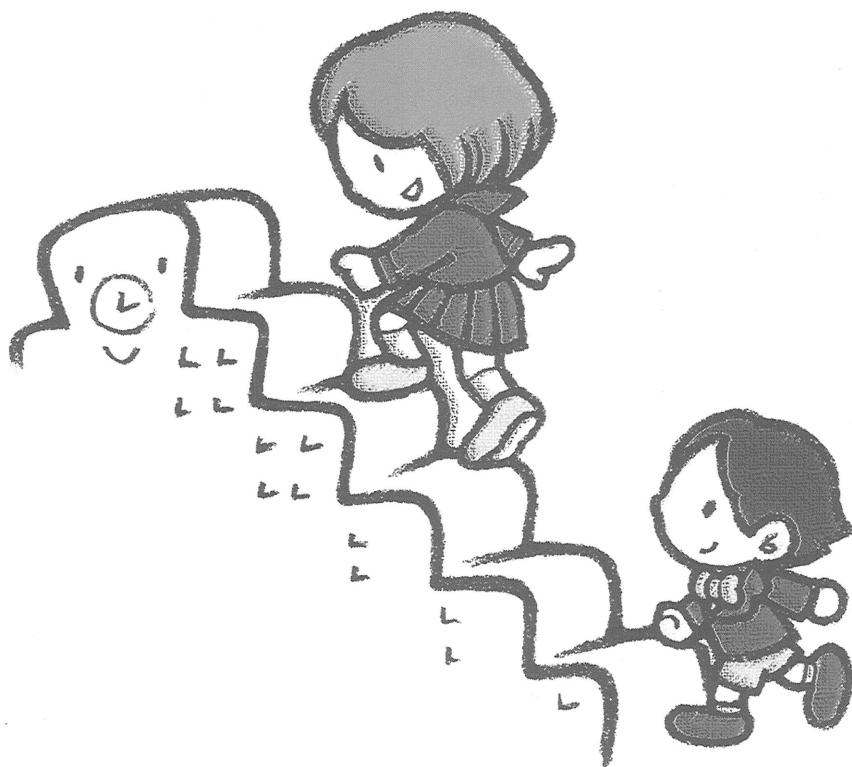


道 教 組

▶ DOKYOSO NEWS vol.500



道教組ニュース創刊500号記念へのメッセージ

「明るい革新道政をつくる会」で
佐藤のりゆき氏の支援決定

全教第32回定期大会

～いい先生より、幸せな先生になろう!～

わたしのとっておき

道教組ニュース創刊500号記念へのメッセージ

道教組創成の思い

道教組初代執行委員長 小林 勝行



道教組結成時（1990年）、労働戦線を激しい右傾化の渦に巻き込み、北教組もあえ無く「800万連合（日本労働組合総連合）」の策謀に飲み込まれました。その歴史の重大な岐路で、私たちは新生組織

（道教組）結成に深い思いを託したのです。その第1は、教職員組合の原点「教え子を再び戦場に送らない」の進歩的伝統であり、第2は、教育の自主性と条理に基づく民主主義教育の擁護でした。

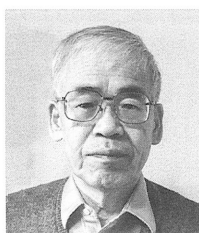
結成総会後の記者会見で、私はもはや北教組では教職員組合の原則と特質の堅持、任務遂行は保障されないことを言明しました。次に、中曽根元首相のソルボンヌ大学での講演を引用し、『『日本が再び帝国主義に進まない保証はあるか』との学生の質問に、中曽根氏は『ありえない』と答え、その保証として4つの防波堤を挙げました。その第1は、強い歯止めの『平和憲法』、第2は、成熟した『民主主義』、第3は、発達した『マスコミ』、第4は、反戦勢力の『労働組合』である』と私は述べたのです。

しかし、その4つの防波堤は反動攻勢の標的にさらされて危機的状況にあります。果たして25年を経た今日、600数十万の連合は戦後最悪の安倍右翼政権の大暴走の防波堤になり得るのでしょうか？否です。

創成から25年、数多くの困難を越えて道教組を守り抜いてきた組合員の皆様に深甚の敬意と感謝を表します。記念すべき「道教組ニュース500号」を節目に、益々堅固な組合づくりを達成されるよう切に祈願いたします。

「道教組ニュース500号」 おめでとうございます

道教組元執行副委員長 松永 武



早いもので道教組結成から25年の月日がたちました。その間、新しい組合づくりのために、道教組や単組の書記局を担ってきた方々、日常の教育実践をすすめながら現場で組合活動をすすめてきた方々

は、本当に大変だったと思います。

私が教職員組合運動にたずさわって23年目、全教・道教組の結成時には、小林勝行委員長や若山俊六書記長のあとからついてゆくのみで、苦勞といえ、23年間働き慣れた職場から離れたこと、簿記一つ習ったことがない中で、財政担当になったことに面食らったことでしょうか。

私が前の職場を離れ道教組をえらんだのは、組合員の思想・信条の自由を否定し、特定政党支持をおしつけることは誤りであり、思想・信条の自由を保障しつつ、現場教職員の要求にもとづく運動をすすめることが正しいと信じたからです。

今、教育現場は、道教組結成時とくらべ、差別賃金の導入や、教育内容・行政の国家統制のいっそうの強化などで、はるかに厳しいものになっています。しかし、厳しい時だからこそ、教育実践と要求にもとづく職場の団結を大切にする全教・道教組の存在価値はますます高まっています。

今、6歳の孫と過ごしながらか切実に願っていることは、9条をはじめ憲法の平和主義を守りぬくこと、二度と福島のような事故を起こさせないために原発をなくすことです。危険な安倍内閣に立ち向かい、みなさんと共に平和を守り、そして原発をなくす運動をすすめていきたいと思っています。

「明るい革新道政をつくる会」で佐藤のりゆき氏の支援決定

2015北海道知事選挙「明るい会アピール」

道民の願い「4つの共同目標の実現!」「道政転換へ!」
佐藤のりゆき知事実現に向けて大同団結、大奮闘を呼びかけます

明るい革新道政をつくる会

1 佐藤のりゆき氏を支援し、道民の願い「4つの共同目標」の実現をめざす

明るい会幹事会は、昨年7月25日に明るい会アピール「誰もが安心して住み続けられる北海道を」発表し、「道政転換への4つの共同目標」を明らかにするなど、政策づくりとともに候補者の選考をすすめてきました。

《4つの共同目標とは》

- ①平和憲法を守り、道政のすみずみまで憲法をいかすこと
- ②原発のない北海道、再生可能エネルギーで地域づくりをすすめること
- ③TPP交渉からの撤退を求め、北海道の農林漁業と地域経済を守ること
- ④貧困と格差をなくし、道民が安心して住み続けられる地域をつくること

候補選考の結果、明るい会がかかげた「4つの共同目標」の実現、「高橋道政からの転換」に向けて、最良の選択であると判断し、昨年11月に立候補表明したフリーキャスターの佐藤のりゆき氏(65)を明るい会として支援することを確認しました。

佐藤のりゆき知事実現に向けて、明るい会として組織を上げて行動することとします。

2 「4つの共同目標」に大筋合致する佐藤のりゆき氏の政治姿勢と政策

佐藤のりゆき氏は、42年間テレビやラジオのアナウンサー・キャスターとして活躍され、そのなかで道政に対するメッセージを送り続けてきました。

道政に対する基本姿勢は「道民の命を守る、暮らしを守る、子どもたちのために北海道の未来をつくるために、真の地方自治をめざす」としています。

原発問題とエネルギー政策については、「私の考えは、脱原発」とした上で、泊原発再稼働について「道民投票で意見を聞いて知事として判断したい」としています。

TPP交渉に対する姿勢は、「北海道にとって、一次産業の振興は不可欠でありTPP参加には到底賛成するわけにはいかない」としています。

集団的自衛権に対しては「反対です」「解釈による事実上の憲法改正は立憲主義に反する行為であり、無効だ」としています。

代表世話人会は、佐藤のりゆき氏が示している「政策と共同の意思」について、「4つの共同目標」に照らして「大筋で評価できる政治姿勢であり、高橋知事とは違い道民の声を聞く姿勢がある」と評価しました。

3 佐藤のりゆき氏への支援と道民の大同団結を呼びかけます

「4つの共同目標」の実現のため、3期12年もの長きに渡って中央追随、国の悪政の旗振り・伴奏者の役割を果たしてきた高橋はるみ道政からの転換を必ず成し遂げなければならない選挙です。明るい会が構成団体以外の候補を共同で支援するのは、初めての挑戦です。

滋賀、沖縄、佐賀の知事選に続き、この北海道でも自公政権を地方から追い込む歴史的な選挙にしようではありませんか。

道民の願いである「4つの共同目標」の実現、高橋道政の転換に向けて、明るい会の構成員のみならずと道民の大同団結、大奮闘を呼びかけます。

全教第32回定期大会

～いい先生より、幸せな先生になろう！～

2月14日、15日、東京都内において、全教は第32回定期大会を開催しました。道教組からは、楢木書記長、中山書記次長、全石狩札幌教組の堂七（どうしち）さんの3名が参加しました。



あいさつする全教北村委員長

冒頭北村委員長は、過激組織「イスラム国」による残忍なテロ行為を通して、全教が、教育が果たすべき役割（諸国民ならびに人種、種族、宗教的集団間の理解と寛容、友好の促進）を再確認しながら、平和と民主主義の実現、子どもたちの人権擁護、教育を受ける権利の確立などを掲げてきたかいをすすめる教職員組合の国際的連帯がますます強化される方向での努力を惜しまないと決意を述べました。

それから、安倍総理が今国会で断行しようとしている「集团的自衛権行使を可能とする新たな安全保障法制の整備」を、今回のテロ事件を口実に突破しようとするのを厳しく批判し、憲法を守りいかに、「教え子を再び戦場に送るな」での立場の違いを超えた共同を大きく広げようと呼びかけました。

今年度の「教育のつどい」や「TANE!」を通して、全教運動がこれまで築き上げてきた「参加と共同の学校づくり」が世代を越えて実践され、困難な学校現場で奮闘することで教職員の支え合い、励まし合うとりくみが、安倍「教育再生」を許さない力として豊かに育まれていることに確信が持てたと。

最後に、「本大会は教職員組合の大会だからこそ、子ども学校、教育を語り合い、教職員と全教

の希望を語り合おうではありませんか」と、2日間の大会に勢いをつけました。

2日間で計70本の討論がありました。青年、特に女性代議員の発言が目立ちました。当初の発言時間6分から5分に短縮されたことで、発言者は要点を絞ることに苦勞しましたが、そこは先生方です。わかりやすくまとめ上げていました。

その中で道教組からは中山書記次長が討論に立ちました。発言の大意は次のとおりです。

組織拡大・強化のとりくみに関して深める立場で討論に参加します。

私は教員になる前、5年間大阪のハウスメーカーで営業をしていました。契約を取るのは大変で、切羽詰まって上司に「売れるセールストークとかマニュアルを教えてください。全部覚えます！」と訴えました。すると上司は、「どあほ！人を相手にしてる仕事にそんなもんあるか！そんなもんあったら、俺が欲しいわ！！」と、怒鳴られました。

その言葉で我に返り、自分は営業成績ばかり気にしてたと。お客さんの大切な家づくりを支えることが大切なんやと気がつきました。

今の学校は“株式会社、のようです。若い教職員は多忙に心を奪われ、「教育」と呼ぶにはほど遠い仕事をやらされ、やりがいを失い、それが「学校教育」だと思われているのではないかと危惧しています。本屋の教育コーナーでは、「これをやればうまくいく」といったマニュアル本が大きく幅をきかせています。私は悩んでいる教師がたくさんいるんだという現れではないかと思っています。

檜山管内にも、悩みながらも成長しようとする若い教師たちがいます。檜山の先輩教師たちは「どあほ！」とは言いません。その代わりに、「大変そうだけど大丈夫か？」「うちで鍋するからおいで」「組合でこんな学習会があるから一緒に行こう」と気にかけてます。そして、自分の教師としての失敗談をおもしろ

おかしく語ります。檜山の先生たちには「失敗談のスペシャリスト」が多いのです。

この冬、檜山では、20代の教員が3人組合に入りました。この3人は直接の理由はそれぞれありますが、「気にかけれ」「失敗談」をたくさん聞いている方たちです。

また、育休の先生たちが集まる場「Hug Café」は、今まで組合事務所に顔を出したことがない組合員が、集い、つながりを強めています。10時から12時まではずが、今では夕方の終了もしばしばです。

今、現場の教師たちは、多忙や「学力」向上、査定昇給などで押さえつけられ、本音や愚痴も言えないでいます。だからこそ、安心してしゃべれる場に飢えているのではないかと思います。そんな安心できる場づくり、2人でもOKの場づくりのとりくみを檜山でもしていきたいと思います。組織拡大・強化、そして共同のとりくみをともにがんばりましょう！

中山さんの発言にもあるように、苦しい時代だからこそ、「集まり、語り、励まし合う」場づく



会場を沸かせる発言をする道教組中山書記次長

りが組合に求められています。また、教師として何が大切かの模索が始まっています。ある代議員の「いい先生よりも、幸せな先生になろう！」という言葉は、参加者みんなの胸に響いた言葉でした。

《全教新3役》

○委員長＝蟹澤昭三（新）、○副委員長＝永島民男（再）、今谷賢二（新）、米田雅幸（新）、中村尚史（再）、吹上政子（新）、○書記長＝小畑雅子（新）

退職するみなさんへ あなたも道退教へ加入を！

全道の退職される教職員のみなさん、道退教という組織をご存知ですか。退職される教職員の生きがいや親睦をかねて楽しい組織がありますので、簡単に紹介します。是非、ご加入下さい。

道退教って、何ですか？ 紹介します

1、道退教はいつから

1992年6月、60余名で結成されました。
現在約900名の会員。

2、活動の3つの柱

- ①親睦交流を深めて、生きがいを広げる
- ②豊かな老後と教育、福祉、社会の発展に寄与する
- ③組織の拡大と強化をめざす

3、主な活動は

毎年の総会、親睦交流、各支部でのサークル活動、宿泊旅行などです。

4、各支部はどこにあるの

石狩・札幌支部、後志・小樽支部、渡島・函館市部、檜山支部、胆振・室蘭支部、空知支部、上川・旭川支部、宗谷支部、十勝・帯広支部、日高支部、釧路支部、根室支部、網走支部 全道13支部 ※留萌だけ未確立

◎加入を希望する方は、インターネットで「道退教」と検索すると、ホームページが出てきます。道教組の各組織でも紹介してくれます。

全国教育研究交流集会 in 奈良に参加して

厚沢部町美和小学校 木口 道代

私にとって今回の研修で一番に学んだことは、『自分がやろうとしている事の良い面、悪い面の両方を理解しようとする事の大切さ』でした。

そう強く思わされたのは、2日目の分科会で聞いた金馬（横濱国大）先生のレポートがきっかけです。

私自身、PISAの結果をもととして、現場が基礎基本の学力をつけようと躍起になっている現状を、点数をとれないよりは、とれた方がいいのだから、あながちやっていることを非難する必要はないのではないか、と開き直りに近い感情をもってやってきました。

研修に集中できる長期休業中に、もう一度学力テストのもつ意味合いを知りたいという思いをもちながら、分科会（教育課程改革と学力問題）を選びました。そこで自分の考えの至らなさ（知ろうとしていなかったこと）に、また、その自分のもっていた思考の持ち方自体が社会の生み出したテスト収斂システムに支配されている部分があったといえるのではないかと、本当に驚かされたのです。

テスト収斂システム、つまり、あるテストに向けてあらゆる人も、物も総動員されるような自体をテストに収斂されること。テスト収斂システムが当たり前の世の中、学生時代を過ごしてきた私にとって何の違和感もない社会の仕組みだが、そのために私のような教員採用試験の一次試験に受かるためだけの学びに時間を費やしてしまった教員が生み出されるのだと納得してしまった。

特に記憶に新しい高校、大学の授業時間を振り返ったとき、テストの点をとるための学びにどれだけの時間を割かれたらどうかと、途方にくれる

のです。自分で学びたい！と思って学ぶことの喜びを知っているからこそ、奈良まで小さな子ども2人をおいて研修に来ることを決意できました（観光ももちろん魅力的だったのは確かだが…）。逆に、学生時代、今のように学ぶことが楽しい！と思って向き合えた授業時間は、何時間あったのだろうか。

問われたら正しい答えをいかに出すか。テスト収斂システムの中で培われてしまった感覚がどこか染みこんでしまっているために、全国学力状況調査のために現場がまどわされている現状を素直に受け入れてしまう自分がいるのだと思われました。過度にテストで点数をとるための体勢になりつつある学校の中で、子ども達に、また、教員に様々な弊害をもたらしていることは明らかなのです。

また、今どきの若者の特徴としてよく聞かれる、分からないことをそのままにしてしまうところや、間違いを恐れる、積極的に他との関わりをもととしないのも、このシステムとの関係を疑わずにはいられません。

テストの点数で測れる学力は、ほんの一部なのです。そのことが再認識できたように思います。「子どもの学びたい、学校が楽しい」を保障できる学校づくりが、PISAに振り回されながらできるはずがないとも感じました。

学びとは何なのか、教育とは、学校とはどういう場所であるべきなのかを自分なりにしっかりと考えをもち、子どもの幸せのために考え行動していける教員でいられるよう、これからも学び続けなければならないと強く感じさせられました。

訓練して点数がとれる、というだけの学力をめざしていないか？なぜ勉強するの？と子どもに聞かれたとき、何と答えられるか？

この2つの質問に、自分が理想とする返答ができる教師になれるようすすんでいきたいのです。



北海道障害児教育 フォーラム開催

2月7日、札幌市内で「北海道障害児教育フォーラム2015」を開催しました。

報告1では、特別支援学校寄宿舎指導員の方から「エピソード

から見た子どもの育ち～寄宿舎生活から生まれる成長と発達」と題し、子どもたちの様子をエピソードとして記録し、子どもたちの成長を語っていただきました。

報告2では、道教組の渡邊悌さんから、知的障がいと自閉的傾向の児童にかかわり、学習支援・生活支援の実践紹介でした。算数の具体的な学習支援、友達の名前を覚えるための生活支援等の報告があり、とても分かりやすく参考になりました。

午後の講演では、向谷地生良教授（北海道医療大）から、「ペテルの家」のとりくみが紹介されました。障がいをかかえた職員2名も参加し、自分の問題をしっかり語り、彼らの生き方に共感した参加者も多くいました。



障教部総会で 来年度方針決定

2月8日、札幌市中央区民センターで障教部総会を行い、来年度の方針・新体制について論議し、決定しました。

最初、総会に参加した梶木書記長から、道教組・道高教組の合同会議で報告した「査定昇給」などについて説明がありました。

その後、渡邊部長から議案の説明があり、支援学校の教育課程、支援員の待遇改善、高教組との連携などが報告されました。午後には、議案とアンケートに対する質疑・討議があり、各単組の活動交流も行われました。

最後に来年度の新体制について提案があり、田中豊一（全釧路）さんが部長に選出されました。



編集後記

「道教組ニュース」が500号を迎えました。読むと、その当時の道教組が蘇ります。組合が発行するニュースは「新聞」が主流です。その意味で、「道教組ニュース」の装丁は異彩を放っています。

海外の場合、新聞は政府と一定の距離を保ち、政府を監視し、事実を見つめ、真実を国民に伝えています。一方、日本ではどうでしょうか。

新聞社のトップや論説員の多くは、安倍総理と会食し、内閣の都合に合わせた報道をしています。

最近では、安倍内閣は読売新聞に優先的に情報を伝えていると言われます。政府高官は「新聞は読売だけでいい」と話し、「政府の公式見解を知りたいければ読売を読めばいいというのが各国情報

関係者の一致した見方」だと、あるジャーナリストは述べています。安倍内閣は国民に真実を伝えない「メディア統制」をしていると言えます。

今年は戦後70年。戦時中、日本（軍）は国民の戦意高揚・維持のため、メディア統制をしました。その苦い歴史に照らしても、今、安倍内閣が「戦争する国日本」へ舵を切ろうとする動きと連動しているように見えて仕方がありません。

「道徳の教科化」で国民の思想統制に手を伸ばす安倍内閣。私たち教職員組合の力が試されます。「教え子を再び戦場へ送るな！」の言葉は、決して大げさな言葉ではありません。

（梶木）

わたしのとっておき

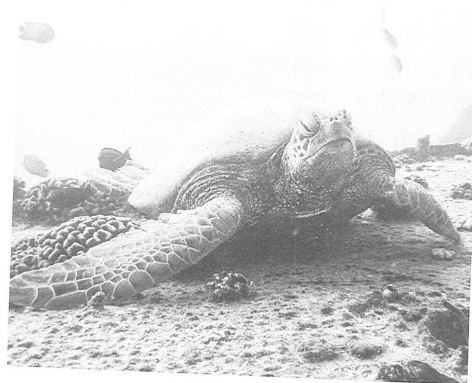
“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「君子蘭」

親から譲り受け、かれこれ13年育てています。本当は春に咲くのですが、冬の室内の気温が高く、夏から秋にかけて咲きます。温度が花の咲く時期をさめる生命の不思議を感じます。とにかく手塩にかけた花はかわいいです。

【羽賀 智子(浦幌小学校)】



「沈船で遭遇したウミガメ」

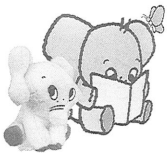
私が職場で使っているパソコンの背景画面です。いつか体を復活させ(首と腰がヘルニア)、南の島へ行って再び海に潜れる日を楽しみにしながら毎日ながめています。

【霜野 勝彦(芽室町立芽室南小学校)】

全教自動車保険

アンケートに答えてドライブレコーダーを当てよう!

年4回の抽選で全国で計2000名にプレゼント



小納谷部長
(川上企画)



各地で
昨年以上の大雪が
報告されています。
見通しの悪い中小路から
交差点に入る時、
他の車両確認が
難しくなっています。
少しずつ慎重に
交差点に
入ってください。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継ぎます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 **川上企画** (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウエスト12 1階
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2015年3月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 西野 誠 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>